

中国のタンクスステン輸出規制

日本市場は4月まで静観

国際相場の影響限定的か

中国は先月、超硬工具などで使うパラタンクスステン酸アンモニウム（APT）のほかタンクスステン関連品目に対し輸出規制を実施したが、日本市場は4月まで静観することになりそうだ。規制後に手配した荷の入着時期が3月下旬～4月上旬ごろと見通されており、見通し通りに入着するか様子見している。ただ不測の事態に備えてサプライチェーンの多様化は摸索されるとみられる。また規制から約1カ月たったが、国際相場の変動は限定的で、供給懸念由来の混乱は見られていない。

中国からのタンクスステン関連品目に対する輸入にかかるリードタイムは、商社筋によると、申請から45～60日程度と見通されている。申請手続きを進めることができたのは2月中・下旬ごろからの声が聞かれており、最短の45日だとしても3月末ごろになりそうだ。ただ2023年に輸出規制の対象となったガリウムも当初は最短45日とされていたが、大幅にずれ込んだことがあり、先行き不透明感はある。

市場動向について、レアメタル専門商社アドバンストマテリアルジャパン（東京都千代田区）の瀧石雄介氏は「実施後すぐに非中国品への切り替えを決断した企業も見られる。ただ規制後も輸入は可能とされているため、多くは中国の動向を見守っている段階だ」と述べた。

展望については「サプライチェーンの多様化を進めてきた需要家も多い。荷動きが停滞したら米国や欧州産への切り替えが加速する

ことになるだろう」と見通した。

国際価格の指標となる中間原料のAPT相場は足元352^{ドル}（W

0₃・10_{キロ当たり}）と

なっている。規制前と比べて値上がりはしたが、10^{ドル}の上伸と小幅高にとどまっている。

中国国内価格も340^{ドル}程度で、国際価格との差も小さい。しかし荷動きが今後停滞して長期化した場合、中国内は需給緩和によりシリ安に、中国域外は需給タイト化によりシリ高となる可能性もある。

事業者は規定に基づいた申請の許可次第で引き続き輸出はできるものの、23年のガリウム・ゲルマニウム、24年のアンチモンなどレアメタルに対する規制が近年続いている。

中国は2月4日、国家の安全と利益の保護を理由にタンクスステンを含む一部レアメタルとその化合物を含めた関連品目について輸出規制を実施した。輸出

